

史料群番号 100

史料群名	にほんすいさんせいひんし  そうこう 「日本水産製品誌」草稿		旧所蔵者	(農商務省水産局)
探訪時住所	東京都			
現在の住所	東京都			
探訪年月	不明			
史料の年代		史料の 総点数	1点	
年代の内訳	近代 1点	筆写稿本	なし	
既刊行目録	なし			

収蔵にいたる経緯

『日本水産誌』三部作といわれる『日本水産捕採誌』『日本水産製品誌』『日本有用水産誌』のうち、『日本有用水産誌』は完成を見なかったが、前の2つはそれぞれ明治43年と大正2年に刊行され、現在でも古い時代の各地域の漁具・漁法、水産製品を知るための貴重な文献となっている。『日本水産捕採誌』『日本水産製品誌』の草稿はそれぞれ澁澤敬三が譲り受けて、澁澤の水産史研究室であった「祭魚洞文庫」に収められた。戦争中、資料の散逸を恐れた澁澤は「祭魚洞文庫」の図書・資料を東京大学農学部へ寄贈、後にこれらは文部省史料館（現人間文化研究機構国文学研究資料館史料館）と水産庁東海区水産研究所を経て水産資料館（現在は中央水産研究所）に分割保存された。『日本水産捕採誌』の原稿は国文学研究資料館史料館に収蔵され、『日本水産製品誌』の草稿は中央水産研究所図書資料館に収蔵されている。

史料群の概要

『日本水産製品誌』は、明治19年、農商務省水産局の初代局長奥青輔を中心に企画された「日本水産誌」編纂事業の一環として、『日本水産捕採誌』『日本有用水産誌』とともに編纂に着手された。いわゆる『日本水産誌』三部作である。このうち『日本水産捕採誌』の編纂は金田帰逸、竹中邦香が、『日本水産製品誌』の編纂を河原田盛美（かわらだもりはる）が担当し、それぞれ明治43年と大正2年に刊行された。

本書は全国各所のあらゆる水産製品を網羅的に取り上げ、その製法の由来や特産地について解説している。着手から刊行まで25年以上もの年月が経過しており、難産の末の刊行だった。草稿は各所に河原田によると思われる手直しがほどこされており、編纂の苦闘を物語っている。